

症例報告書見本（良い例）

日本臨床栄養代謝学会認定資格「栄養サポートチーム専門療法士」認定試験
症例報告書

報告者氏名	〇〇 〇〇	所属	〇〇〇〇
認定教育施設名	〇〇〇〇	指導責任者	〇〇 〇〇
実地修練期間(西暦)	自 20XX年〇月〇日、 至 20XX年〇月〇日	実修練時間	〇〇 時間
診断名	脳梗塞(左片麻痺、嚥下障害)	栄養障害度	軽度・中等度・ 高度

現病歴: 年齢(歳代でも可)、性別は記載して下さい。

72歳女性。20XX年〇月〇日発症の脳梗塞で、心房細動、慢性心不全の既往があり、ワルファリン1.5mgを内服。脳梗塞治療のため〇〇病院に入院加療後、リハビリ目的で〇月〇日当院に転院。入院時は中等度の栄養不良と脱水を認めた。栄養は経鼻胃管(NG)にて1kcal/mLの半消化態栄養剤(商品名)1200kcal+白湯600mLを100mL/hで開始したが、激しい水様便を呈し絶食の上PPNで管理された。

NST介入方法: 身長cm、体重kgは記載して下さい。

主治医はPPNからENへの移行を試みたが、誤嚥性肺炎と思われる発熱と下痢を繰り返し、PPNから離脱できず、SGAで高度の栄養障害と判定されEN移行を目的にNST介入を依頼された。介入時身長150cm、体重39.8kg(通常体重44.0kg)、必要エネルギーは体重44.0kgを用い、H-Bの計算式から814kcal/日(活動係数1.0、ストレス係数1.0)とした。必要たんぱく質はNPC/N150として35g、脂質は20%で27.1g、糖質は107.4g、必要水分量は30mL×44kg=1320mL、塩分量は5gとしてTPNの処方設計を行った。高カロリー輸液(商品名)1000mL/日に脂肪乳剤を隔日で投与した。初回投与エネルギー660kcal、たんぱく質10g、Na50mEq、水分1050mLで、〇月〇日よりTPNに加え消化態栄養剤(商品名)200kcalと白湯100mLをNGチューブから20mL/hで投与開始した。総投与エネルギー860kcal、たんぱく質27.2g、脂質10g、糖質163.9g、水分1320mLとして必要エネルギーを充足するメニューとした。下痢がないことを確認し、輸液はTPNからPPNに、ENを400kcalに増量した。血清Naが136から126mEq/Lに低下したため、〇月〇日から半消化態栄養剤(商品名)200kcal、白湯100mLを2回、食塩1gを分2で処方して投与した。その後は便の状態を確認しながら徐々にEN、白湯、食塩を増量してEN1000kcal、白湯600mL、食塩4gになった状態でPPNを中止した。

臨床経過: 入院後真菌症を発症し抗真菌薬の内服を開始したところ、ワルファリンとの相互作用による検査値異常(PT49.5秒、INR4.3)を認め、ビタミンK注射薬の2A静注で翌日にはPT18.1秒、INR1.6と改善し、ワルファリンを1mgに減量した。検査値は介入によって総リンパ球数、ALB、Ch-Eの改善を認めた。

検査項目	体重	WBC	LYMP	Hb	TP	ALB	Ch-E	Na	K	Cl	CRP	BS
単位	kg	/mm ³	/mm ³	g/dL	g/dL	g/dL	U/L	mEq/L	mEq/L	mEq/L	mg/dL	mg/dL
介入時	39.8	6400	790	10.3	6	2.8	94	126	4.5	101	2.2	115
〇日後	42	6900	1250	12.6	6.1	3.2	141	132	4.6	103	1.2	103

PPN中止時にVFで嚥下機能評価を行ったところ誤嚥を認め経口摂取困難と判定されPEGを施行した。その後、誤嚥性肺炎などの合併症なく回復期リハビリテーション病棟に転棟してリハビリを続け、車椅子移動が可能となった。退院前に再度VF検査を行い、ゼリー少量のお楽しみ経口摂取ができた。

転帰: 退院後は訪問診療、訪問看護、訪問リハビリを受けることになり、在宅医療のスタッフに入院中の経過と在宅におけるEN使用の注意点を申し送り、ENと経口の併用を継続するように依頼した。

※フォントサイズ12にて要領よく枠内(1枚)に入力ください。

記載年月日(西暦) 年 月 日

認定教育施設名: _____

指導責任者氏名: _____ (印)

自署、捺印をお願いいたします。(コピー不可)

症例の説明

- ・年齢、日時を具体的に記載すること(施設規程で記載不可の場合は説明文を参照)
- ・性別も忘れずに。

介入方法

- ・身長、体重をはじめ、栄養評価を必ず記載すること。
- ・栄養治療計画、治療実施、再評価と順を追って簡潔に説明すること。
- ・できるだけ商品名は記載しない(やむを得ない場合は記載可)

臨床経過

- ・栄養治療を行った経過を記載する。
- ・表を用いても良いが必ず解析を加えること。

転帰

- ・栄養治療を行った結果について記載すること。
- ・栄養状態の改善点、問題点などを述べる。

実地修練修了日以降であること